

令和7年5月15日

ゆっくり育つ子のことばを支える ～知的な遅れを伴う子の言語発達と支援実践～

こども言語相談室cotocoto
言語聴覚士西野しょうこ



自己紹介



- **西野章子** 言語聴覚士（国家資格）
- 総合病院にて20年間小児から成人の言語訓練・嚥下訓練を実施
- 行政委託として健診・発達相談に従事
- 長崎大学子どもの心の支援に関わる高度人材育成プログラム講師
- 長崎リハビリテーション学院非常勤講師
- 放課後等デイ・こども園 スーパーバイザー
- 2021年 こども言語相談室cotocoto開業
- 2024年 ことばと学びの教室コトコト開設
- 専門は小児の言語発達全般・構音指導・摂食指導・吃音・学習支援

ことばの教室コトコト

子どもたちが自分の力を
のびのびと出し切って
人生を味わい尽くすために



子と言葉を
つなぐ

特性を
味わいに
変える

子どもと
その家族の
ストーリーを
応援する

本日のゴール

- 言語発達の理解が深まる
- 「どんななかかわり方がことばを育てるのか」が見えてくる



見えない育ちに光を当てる

- ことばの土台は、非言語のやりとりから始まっている
- ことばが出る・出ないだけでなく、「今、何を育てているのか」に気づけることが大切



ことばがない世界

- Infant（乳児）の語源は「話すことができないもの」
- 前言語期＝「まだ未完成」と見なされがち
- 実際には、言葉が生まれるずっと前から、人は人とつながり、伝え合っている。



乳児はタブラ・ラサ？

- イギリスの哲学者 ジョン・ロック (John Locke) が提唱 (17世紀)
- ロックは、先天的な知識 (生まれつき知っていること) は存在せず、すべての知識は感覚的経験に基づいて形成される

赤ちゃんは真っ白なキャンバス (タブラ・ラサ) で生まれてくるよ。

いろんなことを教えてあげないと分からないんだよ。



生得的な知を携えて生まれてくる

- 初期プログラムを内蔵した状態
- 「言語は環境から学ぶもの」→「人間の内にすでにある構造で言語を生み出す」という
- 視点の逆転＝コペルニクスの転回

言語の基盤は生まれながらにして脳に備わっているんだよ
ノーム・チョムスキー



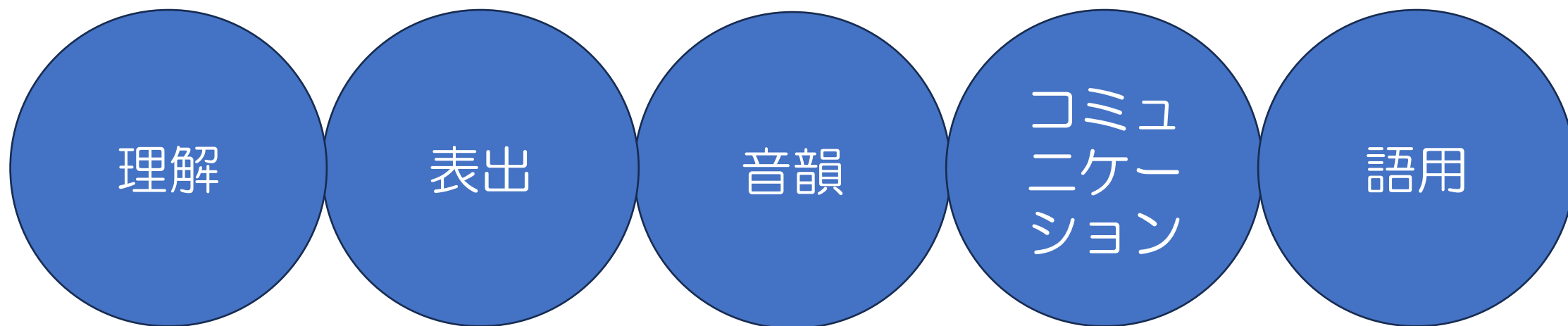
ことばの遅れのある子のあるあるは？



今はどう対応していますか？



ことばの5側面



知的障害のある子どもの特徴 【理解】

- 単語や文の意味の理解がゆっくり。
- 助詞や時制などの文法的な理解があいまい。
- 説明的な話や抽象的な内容になると理解しづらい。
- 1つ1つの言葉は分かっているけど、文全体としての意味を捉えるのが難しい。
- 「ことば」よりも「状況」や「表情」で理解している様子が見られる。

知的障害のある子どもの特徴【表出】

- 単語中心の話し方になりがちで、文で話す力が育ちにくい。
- 自分の気持ちや体験をことばで表すのが苦手。
- よく使う言葉に偏りがあり、語彙が広がりにくい。
- 定型的なフレーズ（例：「おなかすいた」「～したい」）は言えても、自由な表現が難しい。
- 思いをことばにのせる力が弱く、伝わらないもどかしさがにじむことも。

知的障害のある子どもの特徴 【コミュ】

- 質問の意図を正しく汲み取れない。
- 会話のキャッチボールが一往復で終わることが多い。
- 話す・聞くの交代や相手への配慮が難しい。
- 人と関わること自体は好きでも、ことばを使ってのやりとりは未熟。
- 「人と関わりたい」気持ちはあるが、「ことばで関わる」力が未発達。

知的障害のある子どもの特徴【音韻】

- 年齢に比べて発音の誤りが多く、言い間違いや聞き返しが多い。
- 長い単語や複雑な音の並びを正しく言うのが難しい。
- 発音の誤りに気づきにくく、自分の音をモニターする力が弱い。
- 「言いたいことはあるのにうまく言えない」もどかしさが、表出の少なさにつながることも。

知的障害のある子どもの特徴【語用】

- 相手や場面に合わせた話し方の調整が難しい（例：先生にタメ口、場違いな話題）。
- 自分中心の話題になりやすく、相手の反応を見て会話を調整するのが苦手。
- 冗談や比喻、遠回しな言い方が分からず、字義通りに受け取ることがある。
- 「社会的なことばの使い分け」は、発達年齢の幼さに伴って未熟なことが多い。

メタ認知の育ちの変化

- 文の複雑さ

4歳児：「～だから・～すると」等の基本的な接続詞を使う

5歳児：「もし～なら・～だけど」等より複雑な構造の文を使う

- 会話の柔軟性

4歳児：自分の伝えたいことを話すのが中心

5歳児：相手の意図をくみ取って適切に応答でき、会話のキャッチボールがよりスムーズになる

会話上達の原則

- 話題が現前事象から非現前事象へ
「イマココ」から「あの時は」

↓

- 連想による話題逸脱から話題の維持へ
支離滅裂から完結

↓

- 冗長な説明から要約した説明へ
ダラダラ話からスッキリ話

目の前（現前）
じゃないと難しい

2歳代

逸脱する

2歳後半
～3歳前半

ダラダラ話す

3歳後半
～4歳

上手になる

5・6歳代

メタ認知の育ち

遊びの変化

単独遊び



並行遊び



連合遊び



協調遊び



NGになりやすい対応

- 一度で理解させようとする・説明を早口で長々とする
→理解力に合っていないため伝わっていない。
- 質問攻め・正解を求める会話
→大人主導のやりとりに疲れてしまう。
- 「もう小学生なんだから」「年長なんだから」など発達年齢を無視した期待をかける
→責めるような声かけになってしまう。

NGになりやすい対応

- 自分の子育てや自身が育った経験をそのまま当てはめる
→ 本人の特性や背景が見えないまま、感情的に対応してしまう。
- 「言えば分かる」「叱れば直る」という前提で関わってしまう
→ 実は、言われても分からない
- 「甘やかしてはいけない」「自立させないと」という焦りから
厳しくしすぎる
→ 発達の土台ができていない子には、逆効果になることも。

ことばは教えるのではなく “育つ”

- 子どもが安心してことばを発するには、土壌が必要
- 「生得的な知」を発露させる



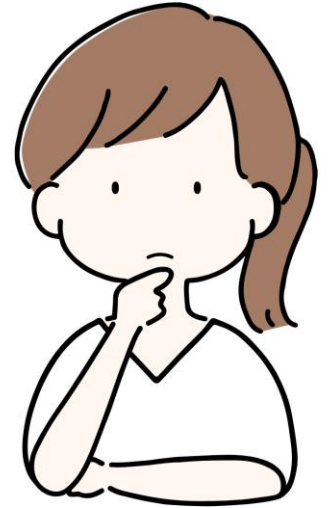
2025/5/15



©cotocoto

子どもたちへのことばかけ

- 子どもは聞いた分だけことばを覚える
- 言葉かけは量が大事
- たくさん話しかけることで刺激になる
- 静かにしていたら何も伝わらないと思う
- 子どもといるときの沈黙が苦手
- 意味がわからなくても、ことばに慣れることが大事
- 話しかけることで、関わっている実感・安心感を与えたい



インリアル 基本姿勢SOUL

- **Silence :**

子供が場面に慣れ、自ら行動を始められるまで「静かに見守る」

- **Observation :**

何を考え、何をしているか「よく観察する」

- **Understanding :**

子どものコミュニケーションの問題について「深く理解する」

- **Listening :**

子どものことばやサインに十分、「耳を傾ける」

子どもの発話のフィードバック

【乳児の母子間のやりとり変化を追跡した研究】

タイミングよく、子の意図に沿って適切に応じる母親の子ほど

- 話し始めが早い
- 表出語彙が50語に達する時期が早い
- 二語文の表出時期が早い
- 過去の出来事（非現前）について表現する時期が早い

13カ月時点で子どもの遊びにしっかり反応する親

- 象徴遊びが頻繁に見られる傾向がある



応答的な
関わり

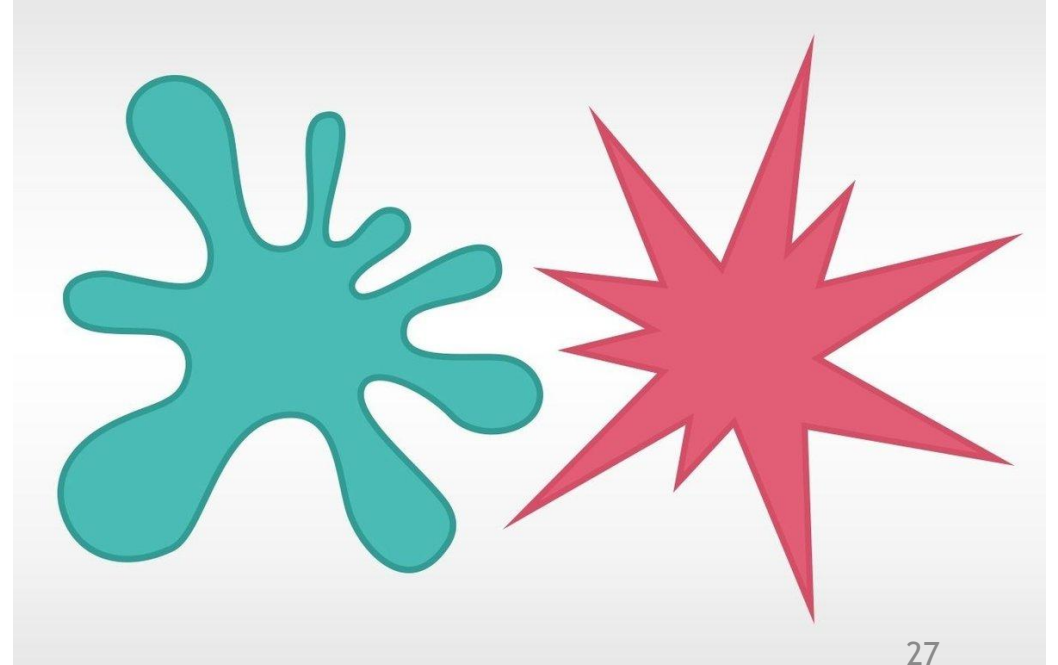
応答的な関わり

- 大人発信ではないことを理解しつつ、やりとりのきっかけをさりげなく与える
- 子どもの非言語の発信に気付く
- 子どもが反応しない刺激は深追いせず、反応する刺激を考える



Bouba-Kiki効果"（ブーバ・キキ効果）

- 音と形の感覚的な関連が人間の認知にどう影響するか
- 言語音（音の響き）がどのように視覚的イメージと結びつくかという実験



共感覚に配慮

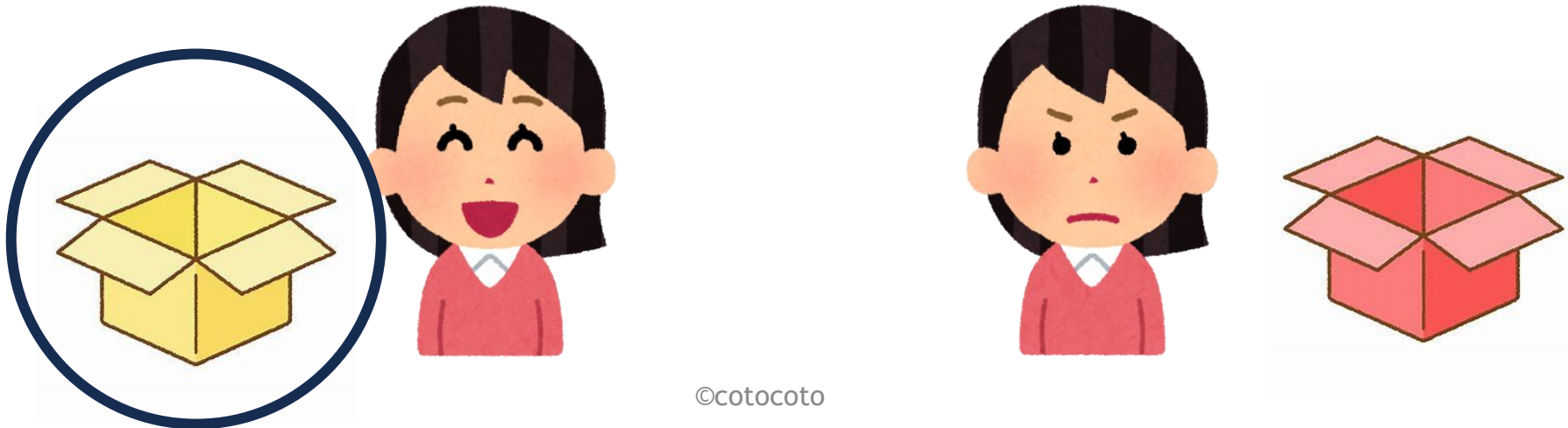
- **共感覚**：ある感覚が別の感覚と結びついて感じられる現象

たとえば、音を聞くと色が見える、文字や数字に色がついて見える、あるいは特定の音で味が感じられるなど、通常は別々の感覚であるものが一緒に感じられること

- オノマトペは効果的
- 声の質感・抑揚
- 使う言葉
- 部屋、道具の色

感情を表しながら関わること

- 2歳の子どもに「tomaを探しにいこう」と、無意味な言葉を聞かせた
- 「しかめっ面」をしたものと「喜んだ顔」をしたモノがある中、子どもは大人が「喜んだ顔」をしたものを「toma」と認識した。
- ポイント
子どもは大人の表情や感情の表れを手がかりにして、物や言葉の意味を理解しようとしている。



幼児への語り掛けの基本

- 幼児語、対幼児発語（CDS:child directed speech）

音律面：ゆっくりした速度、強調された抑揚、高いピッチ、リズム

形式面：言葉の繰り返し、単純な文型

内容面：現在（今ここ）で起きていることについて話す

おいしいおいしいね～

あついあついよ～



※ご注意
言語発達の段階によって
有効な語りかけは変化する
(いつまでもこのままではないよ)

語りかけの量や質についての研究

- 2歳半の子どもへの語りかけ：

いろいろな種類の言葉を使う親の子どもの方が、1年後に語彙が多かった。

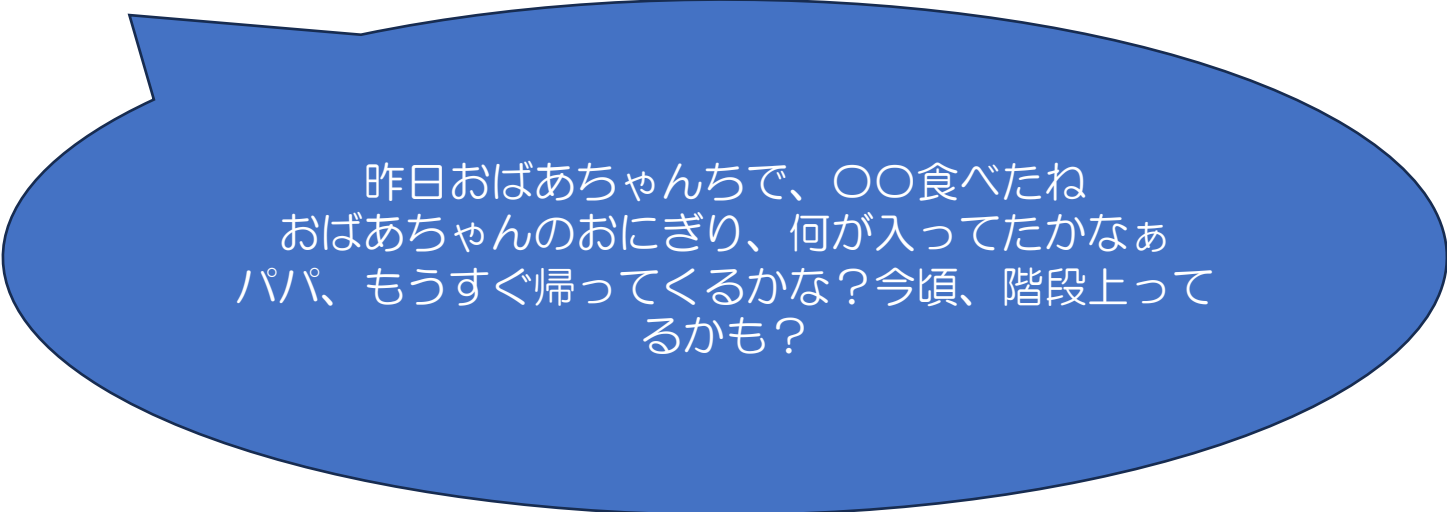


乗ろうね、降りようね
発車オーライ！
シートベルトしめるよ、
ガッチャン！
走ったね 運転したね
とまるぞ、ブレーキ～！
急発進だ！ゆれるね etc.

語りかけの量や質についての研究

- 3歳半の語りかけ：

目の前のことに限らず幅広い話題の言葉を聞いていた子どもほど、その1年後の語彙が多かった。

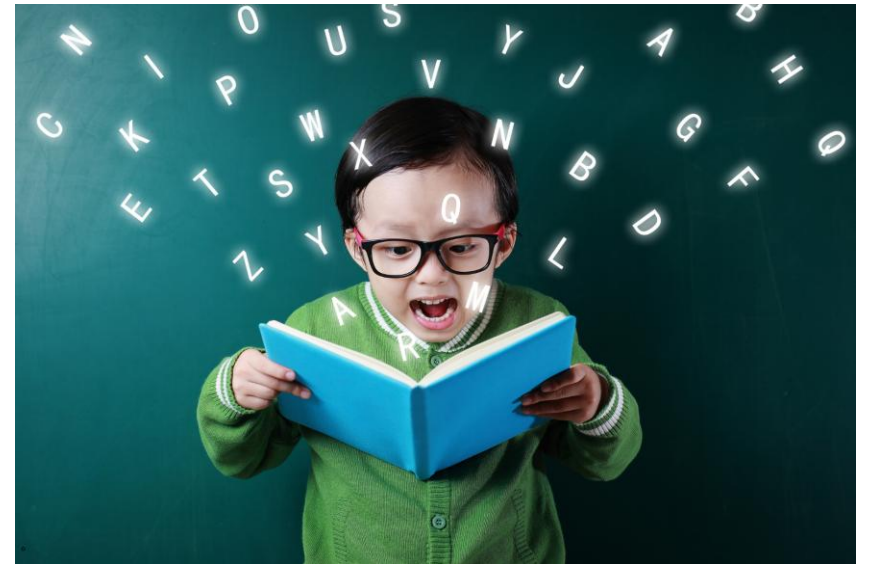


昨日おばあちゃんちで、〇〇食べたね
おばあちゃんのおにぎり、何が入ってたかなあ
パパ、もうすぐ帰ってくるかな？今頃、階段上って
るかも？

脱文脈化

- 時間や場所を超えた、抽象的な言葉の理解ができるようになる。
→過去の出来事を話したり、本を読んで理解したり、想像を膨らませたりすることがしやすくなる。

ストーリーのある、少し長い絵本も楽しめるようになるよ



メタ言語的アプローチ

- メタ言語：言葉について客観的に考える活動
例）なぞなぞ遊び、辞書を使って意味を調べる

注意点

- 子ども自身の語彙を使って言葉の意味を表現する
（能動的な経験）
- 適切な言い回しを自分で考えだすことが表現力を高める
- 指導者はより適切な表現導くヒントや例を出す

やってみよう！メタ言語的アプローチ

①仲間集め

カテゴリーに分類し、なぜ一緒にまとめたのか、また、どこが異なるのかを説明する。

「ペンギンは海の中を泳ぐことができるけれども鳥だ」等、上位概念や複数の特徴で定義づけるといった言語表現に発展させる。

②お役立ちかるた

物の機能について語らせる。素材や上位概念などについて交互に説明を列挙し合いながら書き出すとさまざまな観点から説明できることに気づく

やってみよう！ 似ているところ、違うところ

- 鉛筆 と ボールペン

似ているところ：書くもの・細長い

違うところ：鉛筆は消しゴムで消せる・ボールペンは消せない

- 怒る と 泣く



- 自由 と わがまま



動きを表す語

- 動作を表す語彙を十分に持っていない場合、擬音語や擬態語で表現しがち

例「どんってした」「ぎゅってした」「ふーってした」

- 関連する語の意味の違いや、似ているところを話し合い、例文を作ってみたりしながら聞いて理解できるだけでなく実際に使える語彙に高めていく

動きを表す語

語の種類	例
工作で行うこと	折る 貼る ねじる つまむ のばす 測る
口	たべる 飲む 噛む 吹く 口笛を吹く 吸う はさむ くわえる なめる 歌う シャベる さげふ ささやく つぶやく
足	歩く 走る 跳ぶ スキップする ケンケンする ける 開く 閉じる 踏む のぼる おりる つまずく よろける
目	見る ひらく とじる つむる ウィンクする にらむ ほそめる まわす 横目で見ると 涙を流す
手	開く 閉じる にぎる じゃんけんする さわる つかむ はなす 押す ひく たたく つつく ねじる ひねる ゆびさす
座布団	すわる あぐらをかき 正座する まくらにする 丸める 干す

ことばの育ちに必要な3つの視点

- “わかる”の中身を見る
見かけにとらわれず、「本当に理解できているか」を捉える
- “発信したいと思う力”を育てる
「ことばを使って伝えたい」と思える場面づくりが大切
- “安心の土壌”があってこそことばは育つ
話したくなる空気、応答的な大人、失敗しても大丈夫な関係性

ことばの芽を育む

- ことばは教えるものではなく、「育つもの」
- 育ちのリズムはそれぞれであると理解する。
- 待つ力も支援のうち
- いつできるようになるかな？楽しみに待っているね！というまなざしが、ことばの力を発露させていく。



こども言語相談室cotocoto



- オンライン相談
- オンライン研修
- 個別言語訓練
- 園・クリニックでのことばの教室
- 園だより・通信でのコラム執筆